

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※地域・在宅看護概論 I	1 (15)	1	第1学期	専任教員
目 標				
1. 生活者としての人を理解し、地域で生活する人々の健康状態と健康増進の取り組みについて学ぶ 2. ライフステージ各期にある人々の暮らしの実際について学ぶ 3. 住み慣れた地域での暮らしと看護について学ぶ				
ディプロマポリシーとの関連：DP6、DP2、DP1の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	課題
1	2	1. 生活者としての人の理解 1) 暮らしとは 2) 健康とは 3) 暮らしと健康の関係 4) 暮らしの中で健康を捉える	講義	
2	2	2. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域による多様性 2) ライフステージによる多様性 3) 健康レベルの多様性 3. 家族の理解 1) 家族の現状 2) 家族とその変遷 3) 地域・在宅看護の対象としての看護	講義	
3	2	4) ライフステージ各期にある人々の暮らしの実際 ※フィールドワーク	演習 (GW)	【事後】 課題学習
4	2	ライフステージ各期にある人々の暮らしの実際 (発表)	講義・演習 (GW)	
5	2	4. 暮らしの基盤としての地域の理解 1) 暮らしと地域 2) 暮らしと地域を理解するための考え方 3) 地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義	
6	1	4) 国民の健康状態と地域における健康増進の取り組み ※住み慣れた地域についてグループで探求	講義・演習 (GW)	【事後】 課題学習
7	2	地域における健康増進の取り組み (発表)	講義・演習 (GW)	【事後】 レポート
8	1	5. 住み慣れた地域での暮らしと看護 1) 住み慣れた地域で豊かに、健やかに暮らすには	講義	
9	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験：80点、その他：20点（講義内で説明） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	看護学概論：医学書院 地域・在宅看護の基盤：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
地域・在宅看護概論Ⅱ	1（15）	2	第1学期	非常勤講師
目 標				
地域・在宅療養者及び家族について理解を深め、地域・在宅看護の特徴について学ぶ				
ディプロマポリシーとの関連：DP6、DP1、DP2、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	課題
1	2	1. 在宅看護の変遷と看護をめぐる社会背景の変化 1) 在宅看護の歴史 2) 在宅看護の社会的背景 2. 地域療養を支える看護と在宅看護の倫理と基本理念 1) 権利擁護（アドボカシー） 2) 意思決定支援（ACP）	講義	
2	2	3. 在宅療養者と家族の支援 1) 在宅看護の対象者 2) 在宅療養の成立条件 3) 家族への看護	講義	
3	2	4. 地域保健医療福祉と在宅看護 1) 地域保健医療福祉活動と在宅ケア（ケアマネージメントを含む） 2) 地域包括ケアシステム	講義	
4	2	5. 在宅ケアを支える社会資源と制度 1) 社会資源の活用 2) 在宅療養と社会保障制度（健康保険・生活保護） 3) 高齢者の在宅ケアを支える制度（介護保険制度、高齢者の自立支援・介護予防事業、高齢者の医療の確保に関する法律） 4) 障害者の在宅ケアを支える社会資源と制度（障害者総合支援法）	講義	
5	2	6. 超高齢化社会における高齢者の人権と高齢者保健 1) 超高齢化社会 2) 高齢者の人権 ①アクティブエイジング ②虐待予防 3) 高齢者保健 ①健康長寿の要因 ②多死社会における意思決定（アドバンスケアプランニング含む）	講義	
6	2	7. 医療的ケア児を取り巻く状況 8. 精神疾患をもつ療養者の状況	講義	
7	2	9. 在宅看護における安全と健康危機管理 1) 事故の予防 2) 安全管理 3) 災害対策・災害時の対応	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	地域・在宅看護の基盤 : 医学書院 地域・在宅看護の実践 : 医学書院			
その他				

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※家族看護論	1（15）	3	第1・2学期	専任教員
目 標				
地域・在宅で生活する家族を一つの単位として理解し、家族との援助関係の形成や支援について学ぶ				
ディプロマポリシーとの関連：DP2、DP5、DP6、DP1、DP3の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	課題
1	2	1. 家族看護とは 2. 家族看護の対象理解 1) 家族構造（各ライフサイクルにおける）	講義	【事前】 課題学習 【事後】 ジェノグラムと エコマップの作成
2	2	2) 家族の多様性 3. 家族看護を支える理論と介入法	講義	
3	2	4. 家族看護展開の方法 1) 家族情報収集の実際と情報の整理	講義	
4	2	2) 家族支援の実際（方法、内容、モデル、ツールなど）	講義	【事後】 課題学習
5	2	5. 事例に基づく家族看護学の実践 1) 家族看護の事例と看護の実際①	演習 GW	
6	2	2) 家族看護の事例と看護の実際②	演習 GW	
7	2	3) 家族看護の事例と看護の実際③ 6. 家族看護について語る	演習 GW	【事前】 課題学習 【事後】 レポート
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験：60点、その他：40点（講義内で説明） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	家族看護学：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者	
※地域・在宅看護援助論 I	1 (30)	2	第1・2学期	① 非常勤講師 (15時間) ② 非常勤講師 (4時間) ③ 看護師 (8時間) ④ 専任教員 (3時間)	
目 標					
1. 継続看護における退院調整、退院支援における看護師の役割について学ぶ 2. 訪問看護の看護過程の特徴を理解し、地域・在宅での日常生活援助技術や教育的な関わりについて学ぶ					
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP6、DP2の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	担当	課題
1	2	1. 生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割 1) 外来看護 2) 訪問看護	講義	①	
2	2	3) 入所施設での看護 4) 通所施設での看護 2. 施設内看護と在宅看護の機能の相違と特徴 ①場の違いによる看護機能の特徴 ②生活の場の選択条件	講義	①	
3	2	3. 地域で療養する人々の抱える問題 (安全と危機管理) 1) 療養生活上の問題 ①転倒の防止 ②窒息の防止 ③熱傷の防止 ④閉じこもりの防止 ⑤虐待の防止 ⑥災害時の避難予防 ⑦感染症の防止	講義	①	
4	2	2) 介護力・介護者の健康問題 ①家族介護者のアセスメント ②家族関係の調節 ③介護方法の指導 ④家族介護者の健康	講義	①	
5	2	4. 療養の場の移行に伴う看護の継続性 1) 施設と在宅を結ぶ看護 ①退院支援と退院調整 ②退院計画 ③退院指導 ④施設と地域の連携システム	講義	①	
6	2	5. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 1) 在宅ケアチームの意義と実際 2) 多職種との連携・協働 3) チームケア	講義	①	
7	2	6. 在宅看護での看護展開の特徴 1) アセスメントと評価の技術：患者・家族、家庭環境のアセスメント 2) 病状の変化の予測	講義	①	
8	2	7. 訪問看護の展開 1) 在宅の制度や社会資源 ①ニーズのアセスメント (ICF) ②社会資源の活用 ③介護保険を用いたサービス ④介護保険以外の制度によるサービス ⑤サービスの調整マネジメント (在宅療養者の困難事例の検討：グループワークおよび発表)	講義	②	
9	2		講義	②	
10	2	8. 初回訪問の技術 1) 観察技術 2) コミュニケーション技術 3) 訪問時のマナー 4) 教育 (指導) 技術、相談技術 5) 訪問看護の記録	講義	③	
11	2	訪問の実際：ロールプレイング (初回訪問の事例)	演習	③	
12	2	9. 在宅における援助技術 (アセスメントと援助の実際) 1) 食・栄養のアセスメントと援助 2) 清潔のアセスメントと援助	講義	③	
13	2	3) 排泄のアセスメントと援助 4) 移動のアセスメントと援助 5) 服薬管理	講義	③	
14	3	6) 在宅における清潔援助の工夫 (洗髪、清拭)	演習	④	
15	1	終講試験		①	
授業形態	講義および演習				
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト	地域・在宅看護の基盤：医学書院 地域・在宅看護の実践：医学書院				
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である				

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者		
※地域・在宅看護援助論Ⅱ		1（15）	2	第1・2学期	① 専任教員（2時間） ② 非常勤講師（7時間） ③ 看護師（6時間）		
目 標							
地域・在宅で医療管理を必要とする対象と家族に必要な知識と技術について学ぶ							
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP6、DP2、DP4の達成に寄与							
回	時間	授業内容			授業方法	備考	課題
1	2	1. 施設見学 1) 地域で生活する人々の健康の維持・増進への支援活動の実際 2) 福祉・介護機器、介護用品の実際			演習	①	【事後】 ワークシート 課題レポート
2	2	2. 在宅における医療管理を必要とする人の看護 1) 在宅中心静脈栄養法 2) 在宅経管栄養法（経鼻法、胃瘻法、腸瘻法）			講義	②	
3	2	3) 経管栄養の実際（胃瘻の管理）			演習	②	
4	2	4) 在宅人工呼吸療法（HMV） ①洗浄・組み立て ②酸素管理 ③マスクフィッティング ④吸引（家族への指導含む）			講義	②	
5	2	5) 褥瘡処置（予防、合併症への対応、処置、VAC療法）			講義 演習	③	
6	2	6) ストーマ管理 ①ストーマの種類 ②合併症予防、生活指導 ③社会福祉制度			講義	③	
7	2	ストーマ管理の実際（ウロストーマ、コロストーマ）			演習	③	
8	1	終講試験				②	
授業形態		講義および演習					
評価方法 点数配分		②③筆記試験：90点 ①その他：10点（講義内で説明） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする					
テキスト		地域・在宅看護の実際：医学書院					
その他		※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である					

【専門分野】

科目		単位（時間数）	年次	開講時期	担当者	
※地域・在宅看護過程演習		1（30）	3	第1学期	①専任教員（11時間） ②看護師（10時間） ③非常勤講師（9時間）	
目 標						
地域・在宅で療養している人々と家族への看護の展開と援助方法について学ぶ						
ディプロマポリシーとの関連：DP6、DP5、DP2、DP3の達成に寄与						
回	時間	授業内容	授業方法	備考	課題	
1	2	1. 在宅で療養する高齢者家族への看護 1) 認知症のある高血圧患者と高齢家族の看護	講義	①		
2	2	・グループワーク：アセスメント ①服薬管理 ②生活状況（環境・食事・排泄・清潔の状況） ③家族の健康状態 ④他サービスとの連携	演習	①		
3	2	・グループワーク：地域で活用できるサービス （エコマップを活用して対象を取り巻く地域包括ケアシステム地域包括ケアシステム活用状況の把握）	演習	①	【事後】 エコマップ	
4	2	・グループワーク：訪問看護計画立案	演習	①	【事後】 訪問看護計画	
5	3	・グループワーク：発表・リフレクション	演習	①	【事後】 リフレクション	
6	2	2. 在宅で療養する慢性疾患のある人への看護 1) ALSの在宅療養患者と家族の看護（在宅人工呼吸療法、NPPV）	講義 演習	②		
7	2	・ケアプランの作成 ①症状観察・アセスメント②医療処置（人工呼吸器装着に関するケア等） ③家族アセスメント	演習	②		
8	2	・ロールプレイング：ケアプランの実施	演習	②		
9	2	・ロールプレイング：ケアプランの実施	演習	②		
10	2	・ケアプランの評価	演習	②		
11	2	3. 在宅で療養する終末期を迎えた人への看護 1) 在宅で終末期を送る患者と家族の看護 ①在宅ターミナルケアとは ②時期（訪問導入期・安定期・不安定期・死亡直前期・死亡後）に応じた訪問看護	講義	③		
12	2	③家族看護 ・アドバンスケアプラン 意思決定支援（本人・家族も含める） ・デスエデュケーション ・グリーフケア	講義	③		
13	2	④疼痛緩和・トータルペイン ⑤緩和ケアにおける看護師の役割	講義	③		
14	2	・グループワーク（終末期にある療養者の看護）	演習	③		
15	1	終講試験		③		
授業形態		講義および演習				
評価方法 点数配分		筆記試験：85点 その他：15点（講義内で説明） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト		地域・在宅看護の基盤：医学書院 地域・在宅看護の実践：医学書院				
その他		演習は、概論と基本技術での学習を統合させて具体的な事例のアセスメントから看護計画立案まで、個人ワークやグループワークで行う ※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である				

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者	
※多職種連携演習	1（30）	3	第1・2学期	① 専任教員（13時間） ② NSTチームメンバー（2時間） ③ 薬剤師（8時間） ④ MSW（2時間） ⑤ 非常勤講師（2時間） ⑥ 非常勤講師（1時間） ⑦ 非常勤講師（2時間）	
目 標					
多職種間でコミュニケーションを図り、対象者の目標達成、ケアの質向上に向けて考えることを通し、多職種の役割と責務について学ぶ					
ディプロマポリシーとの関連：DP6、DP7の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	担当	課題
1	2	1. 多職種連携教育（IPE）について 2. 多職種連携・多職種チームでの協働	講義	①	
2	2	1) 症状に応じた多職種チーム活動の実際①	講義	②	【事後】 課題学習
3	2	2) 院内における多職種連携～薬学部学生との共同学習～ 事例についてグループワーク	講義 演習	①	
4	2	各職種の介入方法を考える（事例①）	演習	③	【事前】 調べ学習
5	2	検討内容の発表	演習	③	
6	2	各職種の介入方法を考える（事例②）	演習	③	
7	2	検討内容の発表	演習	③	【事後】 課題学習
8	2	3. 地域の療養に関わる各職種の役割・地域での業務拡大・看護師に期待する役割 1) ソーシャルワーカー（MSW）	講義	④	【事前】 課題学習
9	2	2) 社会福祉士（地域包括支援センター）	講義	⑤	【事前】 課題学習
10	2	3) 成年後見人	講義	①	【事前】 課題学習
11	1	4) NPO法人	講義	⑥	【事前】 課題学習
12	2	4. 地域・在宅看護における多職種連携 1) 医療的ケア児を支える各職種の役割や連携について	講義 演習	①	【事前】 課題学習
13	2	検討内容の発表	演習	①	
14	2	地域・在宅看護における多職種連携の実際	講義 演習	⑦	【事後】 課題学習
15	2	2) 実習で学んだ事例で考える	講義 演習	①	【事前】 課題学習
16	1	終講試験		①	
授業形態	講義および演習				
評価方法 点数配分	筆記試験：50点 その他：50点（講義内で説明） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト	地域・在宅看護の実際：医学書院				
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業時間がある科目である				

【専門分野】